



アメリカ経済

令和 7 年 11 月 12 日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

アメリカのインフレは、その生活構築において、それを享受できる存在と、それに落伍する存在の完全な 2 分化を与える。

これらは選民たちにおける新たな利用の未来と、それに参加できない現実の落伍者の完全な 2 分化である。

また政府は、それを否定しないことは、その意図を自己に有するものであると理解できるのである。

これらが現実の再構築であり、巨大金融資本はその基盤である。また彼らの先端性は世界においてそのトッププレゼンスを有するものであり、世界がそれを否定することは不可能である。

これらは今日の現実であり、新たな未来への歩みは、その選民たちにおける理想の未来を模索するものである。

また国内への投資の要求と関税における自国経済の保護は、彼らの一国主義が、その保護主義へと移行するものであることは理解できるものである。

また彼らの先端性は産業において、世界における基準であり、その先端性は、彼らの大学環境などの基盤において、世界における明らかな優位性を有するのである。

これら世界経済におけるそのサイクルは、アメリカがグローバリズムの寵児として自己を有することにおいて、自国主義という変化が現実における大きな混乱を与えるものである。

これらは現実への警鐘である。アメリカの保護主義と一国主義は、白人主義という世界の正義において、今後新たな現実への転換とともに未来を有することは理解できるものである。